

# 大綱心で交通安全!

## 自転車保険加入とヘルメット着用の義務化がスタート

本年3月、自転車の利用者、保護者、事業者などの関係者の役割や義務などを定めた県の条例が施行しました。

さらに、10月1日からは、自転車保険への加入や乗車時のヘルメット着用などが義務化されました。

自転車も、事故を起こして加害者になれば、高額な損害賠償を命じられることもあり得ます。(下記参照)

また、ヘルメットを着用していなければ、大けがをすることもありますが、万が一に備えて保険に加入し、必ずヘルメットを着用の上、安全運転をしましょう。

### ▼10月1日から義務化される事項

- ① 自転車損害賠償保険への加入
  - ・ 自転車利用者、貸付業者、事業者に加入する義務があります。
  - ・ 販売業者は、購入者への加入確認をしなければなりません。
- ② ヘルメットの着用
  - ・ 自転車利用者は、同乗の幼児に着用させなければいけません。

・ 保護者は、中学生以下の子どもに着用させる義務があります。

### 自転車事故での高額損害賠償の例

これまで、次のような損害賠償を命じる判決が出ています。

#### ▼事例①

- ・ 判決額 9521万円
- ・ 事故の概要 男子小学生(11歳)が夜間、自転車で帰宅途中、歩道と区別がない道路において、歩行中の女性(62歳)と正面衝突。女性は頭蓋骨折などの傷害を負い、意識が戻らない状態となった。(監督責任を問われた保護者に賠償命令)

#### ▼事例②

- ・ 判決額 6779万円
- ・ 事故の概要 男性が夕方、下り坂でペットボトルを片手にスピードを落とさずに走行し、交差点に進入。横断歩道を横断中の女性(38歳)と衝突。女性は脳挫傷などで3日後に死亡した。

### 自転車損害賠償保険について

保険会社や各種団体からさまざまな種類の自転車保険が出ています。下記の加入確認シートで保険に加入しているか確認しましょう。

保険未加入の方は、自転車販売店、または契約中の自動車保険会社などに問い合わせ、それぞれの補償内容などをよく確認し、自転車の利用形態などに応じて加入しましょう。

#### ▼保険の種類

- ・ 自転車向け保険
- ・ 各種保険(自動車、火災、傷害)の特約で付帯した保険
- ・ 共済(全労災、市民共済など)
- ・ 団体保険(会社などの団体保険、PTAの保険)
- ・ クレジットカード付帯保険
- ・ TSマーク付帯保険(点検整備を受けた自転車の車体に付帯した保険)



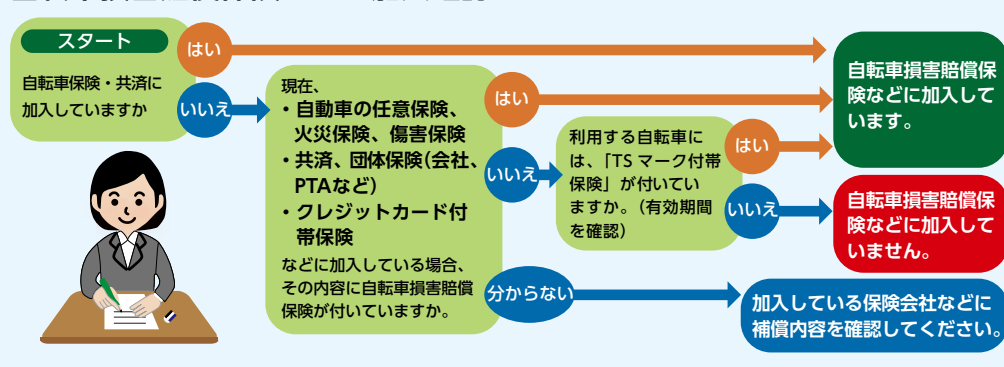
- お～おはようから
- お～おやすみまで
- つ～常に交通安全を意識して
- な～無くそう交通事故

Vol.7

#### 【問合せ先】

- ▼ 本庁防災安全課危機管理グループ  
☎ 51111 (内線4933)
- ▼ 薩摩川内警察署交通課  
☎ 01110

### 自転車損害賠償保険などの加入確認シート



### 男女共同参画情報コーナー



～一人一人が幸せを実感できるまちへ～

【編集】=「とらいあんぐる」編集員

【問合せ先】=本庁企画政策部 ひとみらい政策課  
ひとみらい政策グループ  
☎(23)51111(内線4741)

### 男女共同参画フォーラム in 薩摩川内 開催レポート (後編)

7月2日(日)、国際交流センターにおいて開催された同フォーラムの後編として、各分科会の内容を紹介します。

#### ■第1分科会

薩摩川内市ダイバーシティ研究会(市女性チャレンジ委員会)の学びを生かすための研究会が主体となり、基調講演を受けてのダイアログカフェ(胸の中にある思いを素直に声に出すための意見交換の場)を行いました。「人の意見を尊重する」「秘密を守る」「時間を守る」という3つの約束事を決め、参加者の多様な思いを「つぶやきカード」に書いてもらい、グループで

共有しました。

これまでの生活の中での困り事や心配事を出し合い、そこから気付いたことや、心の中に埋もれている思いなどを話し合いました。

最後に、グループで話し合ったことを各グループの代表者が発表されました。これらの思いを安心して「つぶやき」したことへの喜びや、「将来のことを具体化することができた」という若い参加者の声も聞かれました。発表者の生き生きとした表情と内容に、皆さん共感されていました。



#### 「つぶやき」の紹介

▼子育てをしていた頃は精一杯だったが、もっと子どもの気持ちを思いやれたのかもしれない。  
▼娘に「私はいつもあなたの味方だよ」と言ったことを思い出した。うれしそうなお娘の表情が目についた。  
▼落ち込んでいた私に「生きていますので大丈夫です」と言ってくれた人がいた。「言葉は掛けてくれた人がいた。思わず涙がこぼれた。」

#### ■第2分科会

せんだいCAPが主体となり「未来への保険 それはみんな子育てをテーマにワークショップを行いました。基調講演から引き続き、重永侑紀さんを進行役に迎え、孤立感を抱えた人との向き合い方について話し合いました。

人と人の関わり合いは、時にわずらわしいと感じるものですが、「孤立感を抱えず、自立(自律)して生きていくための保険」であるとの考えを導くことができました。

また、日頃から子どもの話を受け入れる「心」を持ち、耳を傾ける「技術」を学ぶ姿勢が大切との認識を共有しました。

※CAP子どもへの暴力防止に取り組みする市民団体

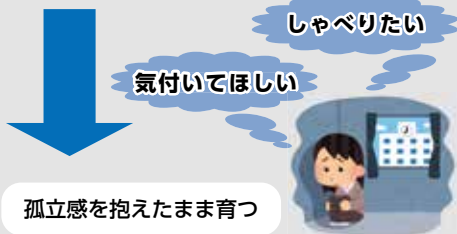


- ・ 周りの大人から優しくされる
- ・ 普段から言葉掛けをされることが多く、会話するのが当たり前



孤立感を抱えず、自立して生きていく

- ・ 周りの大人から冷たくされる
- ・ 心遣いや言葉掛けをされないことが多い
- ・ 会話が難しい



孤立感を抱えたまま育つ

#### ▼主催者「せんだいCAP」より一言

人と人をつなぐことに合わせ、自身の過去・現在・未来もつないでもらえたような気がします。CAPの合言葉である「安心して」「自信を持って」「自由に」というキーワードのもと、充実した時間を過ごすことができ、私たちせんだいCAPの力にもなりました。